

ダイヤモンドバー・成分表、安全シート

製造者情報

柳瀬株式会社
兵庫県丹波市山南町谷川1385
Tel : 0795-77-2151
Fax : 0795-77-3535
作成日 : 2007年12月13日
変更日 : 2023年10月6日
整理番号 : MSDS-Z011

1. ダイヤモンドパウダー (構成1)

物質の特定	成分	含有率 (%)
	人工ダイヤモンド	
	C	99.99%
	Fe, Mn, Co	0.01%以下

2. 基材 (構成2)

物質の特定	母材	炭素鋼 (SKS8)
	メッキ : 無電解ニッケル	
	成分	含有率
	ニッケル	91~95%
	リン	5~9%
危険性情報	発火点	なし。
	加熱性	なし。
	発火性	なし。
	酸化性	なし。
	自己反応性・爆発性	なし。
	粉塵爆発性	なし。
	安定性・反応性	安定。危険な反応、重合は起こらない。

3. ダイヤモンドバー（完成品）

<p>危険有害性の要約 GHS 分類</p>	<p>その他の危険有害性および影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本製品は台金にニッケルメッキでダイヤモンド砥粒を規格量まで埋め込んだ電着砥石です。電着砥石は基本的に砥粒自体の摩耗、破碎、脱落による形状の変化のみとなります。ですので形状自体の変化が少なく寿命を迎えますので、形状が大きく変化した状態で被削材を削ることはありません。 ・電着ダイヤモンド製工具は固体状態では、物理的、化学的に安定しており、発火性、引火性などの物理化学的危険性、生殖毒性などの人健康有害性、水生環境急性有害性などの環境有害性はない。 ・GHS 分類にはないが、工具の研削くず等の被削物から生じる粉じんや微粉末が乾燥状態または油脂類とともに堆積している状態では、自然発火や爆発する可能性がある。 ・引火点、発火点、爆発限界等については知見がない。 ・単結晶ダイヤモンド(PCM)は不活性な状態にあり、健康障害とはならない。 ・乾式研削加工で生じる粉じん等が皮膚や目に接触した場合、刺激を受ける可能性がある。また、粉じんが肺に吸入されるとじん肺等の障害が生じる可能性がある。 <p>GHS 分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当なし <p>GHS ラベル要素 シンボル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当なし <p>絵表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当なし <p>注意喚起語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当なし <p>危険有害性情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当なし
<p>注意書き</p>	<p>【安全対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研磨作業を行なう際には、眼及び顔面保護具、防護マスクを常に着用し、粉じんの吸入を防止するように努める。 ・粉じん対策として集塵装置を設ける。又は必要に応じて全体排気をする。 ・使用前には製品のクラック・振れの有無等を確認し、損傷や振れがある場合は取り替える。 ・損傷や振れのある製品は使用中に砕け散り、眼や顔に重傷を及ぼすことがあり注意が必要。 ・研磨作業を行なう場合や作業付近にいる場合は、眼及び顔面保護具を常に着用する。 ・作業中に生じる粉じんは人体への障害原因となり、注意する。
<p>危険・有害性の分類</p>	<p>分類の名称 : 分類基準に該当しない。</p> <p>危険性 : なし</p> <p>有害性 : 研磨作業中に発生する粉塵は、眼・呼吸器系を刺激することがある。 皮膚を刺激することがある。</p>

<p>応急処置</p>	<p>眼に入った場合 多量の水で直ちに眼を洗い流す。直ちに医師の手当を受ける。</p> <p>皮膚に付いた場合 汚染部位を石鹼と水で洗う。</p> <p>吸入した場合 徴候や症状がでた場合は、新鮮な空気のところへ患者を移動させる。 徴候や症状が持続する場合は、医師の手当を受ける。</p> <p>飲み込んだ場合 適用しない。</p> <p>応急処置に関する特記事項 応急処置はすべて切断又は研磨作業中に発生する粉塵によるものです。</p>
<p>火災時の処置</p>	<p>消火方法 ヘルメット、自給式呼吸器、防火服、腕、胴、脚等の保護バンド、頭部保護具を含む完全保護服を着用のこと。</p> <p>消火剤 水・二酸化炭素・粉末消火薬剤・泡消火剤</p> <p>火災時の処置に関する特記事項 適用しない。</p>
<p>暴露防止措置</p>	<p>設備対策 硬化物の研磨、切削を行う場合は、適切な局所排気装置を使用する。 換気が充分でない場合は、適切な呼吸保護具を使用する。集塵装置を使用する。</p> <p>保護具</p> <p>呼吸保護具 切断又は研磨作業中に発生する粉塵の吸入を避ける。 汚染物質の空気中での濃度に基づいた検定済の呼吸器を選択すること。半面防塵マスク、全面防塵マスク</p> <p>保護眼鏡 サイドシールド付きの安全眼鏡を着用する。</p>
<p>物理／化学的性質</p>	<p>外観等 : 砥粒を基材に電着された研磨工具。</p> <p>沸点／範囲 : 適用しない</p> <p>融点／範囲 : 適用しない</p> <p>蒸気圧 : 適用しない</p> <p>水溶性 : 適用しない</p> <p>比重 : 適用しない</p> <p>蒸気密度 : 適用しない</p> <p>蒸気濃度 : 適用しない</p> <p>pH : 適用しない</p> <p>粘度 : 適用しない</p>
<p>危険性情報</p>	<p>引火点 : 適用しない</p> <p>燃焼範囲－下限 (%) : 適用しない</p> <p>燃焼範囲－上限 (%) : 適用しない</p> <p>発火点 : 適用しない</p> <p>避けるべき物質 : 適用しない</p> <p>有害な分解物 : 通常の使用条件においては、有害な分解物の発生は予想されない。</p> <p>安定性・反応性 : 安定。危険な重合は起こらない。</p>

<p>有害性情報</p>	<p>眼に入った場合 本品を正常に使用している場合に、眼に入ることは予想されない。 眼の機械的刺激：症状は刺激、発赤、角膜の傷、催涙を含むことがある。 切断、研磨又は機械加工によって発生する粉塵は眼を刺激することがある。</p> <p>皮膚に付いた場合 皮膚に付いた場合の健康障害は予想されない。 機械的な皮膚刺激：症状はかゆみ、発赤を含むことがある。</p> <p>吸入した場合 吸入した場合の健康障害は予想されない。 切断、研磨又は機械加工によって発生する粉塵は呼吸器系を刺激することがある。</p> <p>飲み込んだ場合 本品は、摂取される可能性は少ない。</p> <p>その他有害性情報 本品は、適切な条件又は当社の使用方法に従って使用する場合は、危険有害性はない。しかし、本品の取扱説明書に従わないで使用する場合は、製品の性能に影響を与え、危険有害性を起こす可能性がある。</p>
<p>適用法令</p>	<p>労働安全衛生法 P R T R 法</p>
<p>その他</p>	<p>記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。 また、注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には 用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。</p>